車　い　す　体　験

講師：車いす利用者
社会福祉協議会職員　など

目　的　車いす利用者の生活を知る。

時　間　２時間　（４０名位まで）

準備物　車いす、スロープ、障害物他必要に応じて

導入・事前学習

（一例）
新聞記事などの身近な題材から車いす利用者に目をむける
車いすを利用している方を招くにあたり、ルートや階段、トイレ等の確認をする
障害に対するイメージを出し合ってみる　　etc

学校内の身近な場所のバリアに気づくことができます

講　話

車いす利用者の話を聞く
ex.　移動、仕事、趣味、家事などはどうしているか

体　験

①車いすの基本的な操作
＊たたんでいる車いすを広げる
＊広がっている車いすをたたむ
②車いすの介助の方法
＊段差を上げ降ろし
＊坂道の昇り降り
＊階段の昇り降り（介助者４人～）
③障害物を回避する

体育館などの平らな場所のみの体験で終わってしまうと、車いすに乗った方の普段の生活を想像するのは難しいかも知れません。

まとめ

質疑応答
感想を出し合う
自分たちにできることは何があるか考えてみよう

発　展

○実際に車いすに乗って学校のまわりに出てみよう
→不自由だと感じた点は、配慮がされていると感じた点は？
→どんな街になれば車いすに乗っている方にとってすごしやすい街になりますか
→それは他のどんな人にとってもメリットになるでしょうか？

障害者という限られた人のために配慮するという考え方ではなく、例えばケガをして松葉杖をついている時やベビーカーをひいている人たちなど全ての人にとってメリットになることに気がつくのではないでしょうか。

○車いすマップを作ってみよう
→車いすを利用している人が外出する時に知っていると便利なものを載せた地図
→障害者用トイレマップなど、テーマを絞ったマップを作る方法もあります

○車いすに乗りながらいろいろなスポーツで活躍している方がいます。一緒に交流してみよう。

車いすも個々人の障害にあわせていろいろなタイプがあることを知ることによって「車いすにのっている人」という抽象的なとらえかたから「○○さん」という個別化した見方になってくるかもしれません。「障害者は○○」「車いす利用者は○○」などと一概にまとめることはできないことに気づきます。誰もが自分たちと同じく、みんなそれぞれが考えていること・望んでいることは違うということに気づきます。